

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 愛澤豊重
編集主筆 竹澤知代志



八束教師委員による「教団の教師像」の発題

新任教師オリエンテーション

教団の教師として宣教を共に担う

出身校等の違いを超えた同労者

二〇〇七年度の新任教師オリエンテーションが、六月二五日(月)から二七日(水)まで静岡県伊豆市の天城山荘にて開催された。主題は「教団の教師として宣教を共に担う」。新任教師が六一名、関係者を含めると計八一名が参加した。新任教師となった三カ月、それぞれの働きの場から離れて、歩みを振り返ると共に、出身神学校等を超えた同労者としての新しい出会いと励ましの時となった三日間であった。

毎年行われているこのオリエンテーションは、次の三つの課題を掲げている。
①日本基督教団の「教師」像を探ること。②日本基督教団の「宣教」の内容を探ること。③宣教を「共に」担う協力体制を探ること。
今回の日程の概略は次のようなものであった。第一日目には、松井睦教師委員長による開会礼拝に続いて、「教団の過去・現在・将来」として山北宣久教師議長の講演、夜は「交わりの時」。第二日目は、「教団の教師像」として八束潤一

具体的諸問題に学ぶ

初日の山北議長の講演「教団の過去・現在・将来」は、まず過去の教団の歩みの中の誤りの部分を神の御前に懺悔したいと述べられた。その上で、将来に向けて大胆な伝道の実践をしていくことが必要であるとして、青年伝道や児童・高齢者伝道、献身運動、隠退教師・無任所教師の活用、憲法第九条の堅持による平和国家形成のための努力など、具体的な構想が前向きに語られた。

八束教師委員による「教団の教師像」の発題では、教憲を手がかりに、教団の教師像を「合同教会である日本基督教団を、教団信仰告白に基づいてキリストの体なる教会として建て上げ

教師委員が、「教団の働き」として小林眞教団副議長が発題をした。午後には「教団の取り組み」差別と人権」として東谷誠部落解放センター運営委員長の講演があり、「諸手続の説明」として勝山健一郎幹事、「出

版局について」秋山徹出版局長、「年金局について」高橋豊年金局長の話がなされた。続いて「カルトの問題について」岩崎隆教師委員が講演した。夜は分団に分かれてディスカッションがなされた。三日目は、「牧

会講話」として小島誠志教師の講演があった。全体として教団について

そしてカルト宗教などの団体の実際の種類等について丁寧に語られた。またそのような宗教や団体に入った人の悲惨な現実についても

互いを知り理解する

オリエンテーションは、講師の話聞くだけではなく、二日目、三日目の朝礼拝の奉仕は新任教師が務めた。それぞれ海老原佳奈子教師(広島流川教会)、池田季美枝教師(富貴島教会)が、伝道牧会に出た場でのことを踏まえて説教した。

自由時間では、温泉に行く者や近くの滝に散策に行く者、グループに分かれて初めての働きの場の緊張を離れ、リラックスした時間を過ごした。

また二日夜の分団は、出身神学校とCコース出身者がそれぞれ偏らないよう



2日目の朝、山荘の中庭で、総勢81名

ってなされた。新任教師と言っても、その年齢や人生の背景は様々である。それが自己紹介の中でそれぞれから語られることによって、主の恵みを分かち合う良き交わりとなったようだ。各分団とも実際の働きの場に出ての説教や牧会上のとまどいや悩み、また希望なども語られ、豊かな時間となったと思う。

食堂での食事の時間も、共に食卓に着く中で、自然に互いに知り合いとなる時として過ごすことが出来た。昨年参加者から好評だった三日目の「牧会講話」は、今年も小島誠志教師(松山番町教会)が語られた。自身の豊かな経験の中から、参加者の関心の高い説教や牧会上の苦悩などが失敗談を交えて語られ、トゲのように見える人が実は自分を育ててくれた主の恵みが証しされるなど、大きな示唆を受けると共に慰め、励ましもなった。

プログラムの終わりに「全体まとめ」として参

に配慮して分けられ、お互いに知り合い、また理解するきっかけとなることを願

互いを知り理解するには…食卓の交わり



互いを知り理解するには…食卓の交わり

(小宮山剛報)

▼これは、敬愛する先輩牧師から聞いた実際の話。狭い境内地に教会、幼稚園、

牧師館がある。彼はそれぞれの入り口で一旦立ち止まり…彼の言葉によれば、お面を整える。そうしない、牧師、園長、そして夫々、それぞれのあべき顔を、

確かに要求される。現代人は、勿論、牧師も例外ではなく、複雑な社会の複雑な局面で、複雑多様な対応を要求される。忙しく仮面を付け替えるときさえ言えよう。▼だからこそ、確固として、自分の素顔を持って

は、素顔を失うの謂かも知れない。▼映画「マスク」はI・IIとも愉快だった。ブロンジー二の同名小説もある。超ベストセラー作家の隠れた名作だ。少し古い

第1回スイス協約委員会開催

伊藤瑞男委員長、廣石望書記選出

第35総会期第一回スイス協約委員会が、二〇〇七年六月七日、教団会議室で開催された。今期委員は伊藤瑞男(静岡教会)、廣石望(フェリス女学院大学)、ダ



「スイス・韓国・日本三国間教会協議会」の実施報告

イト・ヴィター(関西学院大学)の三名である。互選により委員長に伊藤氏を、書記に廣石を選出した。報告としては、去る二〇〇六年十一月十六日から二

〇日、スイス国バーゼルおよびベルンで「God's Migrating People」を総合主題に開催された「スイス・韓国・日本三国間教会協議会」の実施報告がなされた。

日本側の代表団には本委員会より廣石望、ダーヴィト・ヴィター、上田博子(教団担当幹事)の三氏に加えて、大津恵子(前「女性の家HELP」ディレクター)および土井桂子(前在日韓国朝鮮人・日韓連帯特別委員会委員)の両氏の計五名が参加した。スイス側はスイス・プロテスタント教会連合(SEEK)とミッション21が、韓国側では韓国基督教長老教会(PROK)と大韓イエス教長老会(PCK)の二教会がそれぞれ代表団を派遣した。こ

教会および倫理の視点から研究発表と討論を行った。さらにスイス政府の入国管理施設での現地研修、二国間協議、ベルンの韓国語教会での主日礼拝、ホームステイなどの多彩なプログラムが実施されたことについて報告された。

議事としては、この協議会の次回開催について協議した。その結果、前回協議会からの要望に応じて、「平和」を主題として二〇〇九～二〇一一年の間に日本でを行うこと、韓国協約委員会との共催で行うことを同委員会に提案すること、またこの趣旨をミッション21総会(六月下旬)で先方に報告すること、が可決された。(廣石望報)

宣教師人事委員会組織発足

委員長木下宣世氏、書記上内鏡子氏

去る五月三〇日(水)、宣教師協力協議会(CoC)全体会議において正式にCoCの解散が決議され、今後北米の宣教師受け入れについては、日本基督教団が引き継ぐことも併せて決議された。

このCoC解散に伴い、第35総会期世界宣教師委員会は、北米宣教師受け入れに関する責任を担うため、世界宣教師委員会の下に宣教師人事委員会を新しく設置した。このことは、第一回世界宣教師委員会開催の報告(教団新報四六二二号)ですでに触れたが、六月四日(月)、第二回の宣教師人事委員会で正式に委員会組織が決定し、いよいよ動き出した。委員長は木下宣世教師(世界宣教師委員会書記、神戸イエス教会)、委員三名は岡村恒教師(大阪教会)、田中弘志氏(女子学院院長、宣教師協力学校協議会)、棟居勇教師(好善社理事長、陪席者がウエイン・ジャンセン宣教師(東京神学大学)である。

この委員会は宣教師人事に関わる。北米教会の宣教師に加え、従来世界宣教師

力委員会が関わってきた北米以外の受け入れ宣教師についても引き続き責任を負う。現在、教団には受け入れ宣教師が約八〇名登録されている。

委員会の役割は、派遣元の海外諸教会と派遣先である教団の教会や学校などの諸団体との間に立って信頼関係を作りながら受け入れ宣教師の人事を司ることである。いわば、世界のキリスト教と国内のキリスト教をつなぐ窓口としての任務を負っている。今後、神の国の大きなビジョンを持ち、世界宣教の働きをなしてゆきたい。

特に、第二回宣教師人事委員会で、宣教師と教団諸教会や諸教会との関係の中で、宣教師の個人的な信仰生活を豊かにし、更に、関わる教会が宣教師を通して互いの課題を担い合うことが、世界宣教の力になるのではないかという意見が交わされた。これが、当委員会の下にある諸委員会の委員長らの陪席も含め合計一〇名という大きな組織となった。

まず、台湾の高雄日本語教会付属めぐみ園で、去る三月末日まで奉仕された高久華子宣教師の帰国報告を受け、慰労を兼ねた昼食会を開催した後、委員会報告と協議に移った。

第一回委員会で委嘱中の委員が出席できなかったため、第二回の委員会では前回議事録(案)を丁寧に検討した上で承認する運びとなった。

今委員会は、改組に伴い

組織改編に伴う委員会運営を協議

第2回世界宣教師委員会開催

去る六月十二日(火)、第二回世界宣教師委員会が開催された。前回会場であった委員が加わり七名全員そろった委員会となり、当委員会の下にある諸委員会の委員長らの陪席も含め合計一〇名という大きな組織となった。

まず、台湾の高雄日本語教会付属めぐみ園で、去る三月末日まで奉仕された高久華子宣教師の帰国報告を受け、慰労を兼ねた昼食会を開催した後、委員会報告と協議に移った。

第一回委員会で委嘱中の委員が出席できなかったため、第二回の委員会では前回議事録(案)を丁寧に検討した上で承認する運びとなった。

今委員会は、改組に伴い



北米宣教師受け入れに関する責任を担う

「教誨師の課題と展望」を主題に

教誨師、教区代表者会開催

古都・奈良、平城京の一角・かんぼの宿に、教団の教誨師二七名が結集した。二〇〇七年六月四～五日、今回の教区代表者会は日本キリスト教団・教誨事業協力会にとつては、歴史的一頁になると、代表幹事

生野隆彦師(三崎教会／横浜刑務所・横須賀支所)が挨拶。藤崎信師の開会メッセージに始まり、後宮俊夫師の閉会説教で締めくくられた。

さて「教誨師の課題と展望」を主題に、教誨事業協力会のあり方を副題に、井上喜雄師(金沢八景教会牧師／横浜刑務所、今年度財団法人全国

教誨事業協力会」として任意団体になった歴史的経過を振り返りながら、この働きは、おもに①有志の団体、②募金の団体、③研修実行の団体である

ることを示唆した。質疑応答ではこの移行の是非や、自主活動団体にするための規則作成、財政基盤の確立等々に関する討議がなされた。一方発題者三名、世良田静江師(羽田教会牧師／藤刑務所、浦上結



会場となった「かんぼの宿」前にて

慈師(大阪東十三教会牧師／大阪医療刑務所、大野小康師(隠退教師／大阪拘置所)が施設現場からの活動報告をされ、それぞれ初任者の教育、受

刑者の洗礼や棺前(かんぼ)教誨(受刑者の葬儀、受刑者の更正保護など事例をあげて発表された。幹事会はこのらをどのように具体的に取り上げていくか、大きな課題である。又長年要望されていた「キリスト教教誨マニュアル」を発行し、教団教誨師全員に配布できた。

次期代表幹事に七月から深山祐(たすく)師(国分寺南教会／府中刑務所)が就任される。

(鈴木真報)

「戦責告白」40周年を巡る議員提案を可決
第一一八回神奈川教区総会

神奈川

六月三日、第一一八回神奈川教区総会が、清水ヶ丘教会を会場に開催された。まず、川又志朗牧師の司式により、逝去教師を覚えてつづつ開会礼拝が行われた。来賓の紹介の後、正議



准允式、新たに 3 名の教師が立てられた

議案第一号は補教師の准允執行に関する件。三名の准允受領志願者が所信を表明、質疑を経て、議長は次のように議場に問うた。「この准允受領志願者が受験した教師検定試験が、神奈川教区から見ても不当であるとまでは言えないと思われる方の挙手を求めます」。これは、教師検定試験に問題提起をしてきた神奈川教区独特の手續であり、教区総会における准允、按手礼の場合の他、常置委員会での志願者面接の際にもその都度行われている。この問いについて多数の挙手を確認した上で議案は可決、直ちに高柳議長の下式により准允式が執行され、新たに三名の教師が立てられた。関係教会からの出席者が紹介され喜びを分かち合った。

議案第二号の教務報告承認に関する件では、常置委員会議事録に関して、フレイベートな内容を含む発言が議事録に残されていることなどを巡って議論され、執行部が問題点を認識し対

応することとした上で承認、可決された。昼の休憩に入る前に、能登半島地震の被災教会支援のためのカンパが呼びかけられ、議場において一四二、一五一円が集められた。

告、会計報告等の諸議案が可決された後、議員提案の議案第六号「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」40周年を覚える決議の件」が審議された。「戦責告白」四〇

ス教団との交わりを深める、戦責告白四〇周年を記念する集会を持ち、同じく教団にも働きかける、などを表明している。憲法第九条の改定に反対するだけでなく、天皇の地位を定めた第一条の削除を求めなければ矛盾であるなどの意見が出され、議論となったが、原案通り可決された。

部活解放センター、本部事務局も含め、会計基準統一の必要性が指摘された。最後に、九月二四日〜二五日開催予定の全国財務委員長会議の準備に入った。

白川鄭二氏（隠退教師）六月四日、逝去。九二歳。大阪府に生まれる。一九四一年同志社大学神学部卒業。後久世教会に赴任。その後桜美林教会を経て、五〇年から八六年まで函館千歳教会を牧会し隠退した。遺族は妻の恵美子さん。



教師異動 酪農学園 就教肥田信長 シャロンのぼら 就担鈴木一義 浦和東 就(主)永井三男 東中通 就担滝瀬 下妻シャローム 就(主)小形泰代 鴨島兄弟 就(主)大田健悟 佐川 就(主)大坪信章 流山 就(主)与那城初穂 足立梅田 就(主)福田 実 目白 就(主)篠原 信 敷島 就(主)長崎哲夫 使徒 就(主)松本のぞみ 信濃町 就(主)松本 周 町屋新生 就担稲垣千世 四谷新生 就(主)藤 恩峰 流山 就(主)中山月夫 青山学院大学 就教高砂民宣 荻窪清水就(兼担)高砂民宣 花小金井 就(主)久山庫平 辻堂 就(主)押川幸男 就担押川沢江 就(主)奥田 望 城之橋 就(主)中島信義

波田 就(主)平良みほ 飯田吾妻町 就(主)並河光雄 遠州 就(主)川上 寧 若草 就(主)勇 文人 輪島 就(主)釜士達雄 塩尻アイオナ 就(主)川本恵子 上賀茂 就(主)高橋 潔 千里聖愛 就(主)中井大介 大阪東 就(主)牧浦 昇 天満 就(主)藤井 敏 河内長野 就(主)堀地敦子 南紀の台 就(主)堀江知己 堺 就(主)阿部 啓 神戸北 就(主)藤原寛人 神戸栄光 就(主)畑 昌子 御影 就(主)本多 肇 甲子園二葉就(主)山崎往夫 はりま平安 就(主)長谷川進一郎 鳥取 就(主)大前幸正 八代 就(主)今村博至 延岡三ツ瀬 就(主)山本爽起子 就(主)山田啓人 宮崎 就(主)押川幸男 天草平安 就(主)瀬尾弘志 小倉日明 就(主)川本良明 佐賀 就(主)山田 暎 長崎平和記念 就(主)森島 豊

出版局、部落解放センターの決算も審議

第35総会期第二回予算決算委員会は六月七日〜八日開かれ、教団二〇〇六年度決算が確定した。

両者の決算は、教規で予算委員会を経て常議員会で承認を求めよう定められており、この点でのこれまで不徹底さが、今回改善された。また、これは、教団会計全体を統合的に把握する必要性を求める教団会計監査の方針及び機構検討特設委員会の趣旨に添うも

のである。教団事務局会計〇六年度決算では、支出が前年度比約六%縮小の302,331,212円となり、収支差額5,021,581円を以って常議員会に報告されることになった。教団財政改善と健全化への努力の結果が〇六年度も見える形で表

れていると言えよう。二〇〇七年度補正予算は前年と横並び、303,415,508円で承認され、会議室改修の計画も織り込まれた。

同補正予算に見られる特徴の一つは、経常会計と収支事業会計とを分離独立させたことにある。また、減価償却積み立てなど、資産管理面での長期的枠組みが設けられた。

教団出版局は経営基盤の確立が期待される一方で、

(鈴木功男報)

奥 羽
今こそ祈りを集めなければ

邑原宗男

第62回奥羽教区総会は、一つの決意することとなった。勿論常置委員会において検討し、教区教師宣教セミナーや宣教会議、さらに各地区総会においても報告を繰り返し、協議する時を持ち、総会へと提案した議案である。それは「謝恩日献金の増額に取り組む件」である。

それは第34教団総会で賛成を得られず、その後の教団年金局理事会や常議員会での検討のもと、

(奥羽教区総会議長)

教区
コラム

第35教団総会で教団年金局財務計画額が可決された。この可決はけっして人ごとではない。教団全体で「謝恩日献金」を増額分と以前からの献金目標をあわせると一億

ト、献金額でも五〇万円をわずかに上回る状況であった。それでは計画額への協力をどのように進めればいいのかについて財務委員会、さらに常置委員会と検討して

「教師の友」総主題決定
第2回教育委員会

第二回教団教育委員会が、六月十一日(月)、十二日(火)の両日、教団会議室において開催された。

友の総主題と三ヶ月毎の単元のテーマの報告を受け、協議の後、承認した。総主題は前期プログラムと同じ「いのち」を共に生きる」に決定した。「教師の友」は教団教育委員会が立案する三年サイクルの教育教育プログラムに則って編集されている。教育委員会と「教師の友」編集部、両者の働きのためにお祈り頂けると感謝である。クリ

スマス小委員会からは、二〇〇六年度の全国の教会学校よりさげられた献金の報告を受けた。学校や幼稚園、保育園からの献金も合わせた総額は11,233,414円(二〇〇七年三月末現在)であった。この紙面をお借りして感謝と共に報告いたします。献金先は海外が南インドの少女プログラムとタリット支援の二ヶ所、国内がアジア学院と

(加藤誠報)

訂正 4630号3面事務局報欄 氏名「海老原佳奈氏」を「海老原佳奈子氏」、「大塚高志氏」を「大野高志氏」にお詫びして訂正いたします。

三月二五日九時四二分、東京の安藤記念教会でCS教師会を行っている最中だった。知り合いの方から、「輪島に地震があつて大変なことになっている」という連絡をもらい、すぐさま輪島教会に電話をかけたがつかまらない。その日は神学生としての最後の奉仕日。教会では私のための送り出し会を企画してくださっていた。しかし、その背後に地震で被災されている方のことを思うと、喜びに浸ることの出来ない複雑な日であつた。地震発生から四日後、輪島に着く。教会堂の隣の家は、縦に貫く

ではない。羽咋教会の富来伝道所は、土台も屋根も大きく損壊し、取り壊しを余儀なくされている。七尾教会の牧師館は屋根が歪み、軽い余震でもすぐにぐらつく。七尾教会教会堂も、建物自体が地盤沈下し、傾斜が生じている。そこで礼拝を守る教会員の精神面の不安は大きい。羽咋教会の幼稚園、七尾教会幼稚園はモルタルに亀裂が走り、幼児達が壁に手をつけて遊べば指を切ってしまう。今後のことを考えれば耐震工事も必要な状態だ。また富山の魚津教会も、モルタル等の修理が必要な状態である。

時間と努力をかけざるを得ない。しかし、被災した教会員もいる中、そのようないことが不可能であるのは、火を見るよりも明らかである。北陸地方を共に伝道するある牧師が、集会で地震への必死の呼びかけでこのようにアピールした。「どうか皆さん、三万、五万の献金で良いと思わないでください。どうか、今しよつとしている献金額に〇を一つ加えてください。本当にお願います」この呼びかけを聞き、能登圏の教会の悲惨さに共感したある牧師家族の方が、まさに〇一つ多い金額をこの地震の再建のためにささげて下さった。その事実を知り、奮い立たされる思いがした。能登圏の教会はこの地震に負けるわけには行かない。能登の伝道のために、北陸の伝道のために、教会は常に立ち続けなくてはならない。輪島教会の掲示板にはびつりと励ましの手紙が貼られている。祈られ、支えられていることがよく分かる。

いからし 五十嵐成見
輪島教会信徒伝道者

地震が収束したかと思うと、震度4級の地震が断続的に起こり、未だ能登の人の精神が落ち着くことはない。つい先日(六月二日)も羽咋に震度4の地震が襲ったばかりだ。余震は建物に大きな影響を及ぼす。地震の被害はまだ終わっていない。

中部教区は二〇〇七年度、地震再建のために教区内で三六〇〇万円の募金を行うことを教区総会で決定した。しかし、能登圏の教会・関連施設を全て再建させるための資金としては残念ながら全く届かない。少なくとも、その五、六倍の金額がかかろうと推測されている。能登圏の教会は、いずれも経済的に豊かではない教会だ。もし自力で再建としたならば、途方もない

亀裂が走っており、立ち入り禁止の紙が貼られていた。牧師館の裏の家屋は半壊し、屋根や横壁が激しく歪んでいた。教会堂は、木枠の窓の損傷、モルタル部分の亀裂等、改修が必要な箇所は生じているが、構造上の問題は生じていない。問題は牧師館だ。土台部分にひびが入っており、家屋が若干傾き、牧師室の窓が開かない状態になっている。老朽化も進み、緊急に取り壊す必要はないが、三年は持たない、との診断が建物診断士よりなされた。

地震の被災教会は輪島教会だけ



牧師館の土台にはあちこちに亀裂が走る

359 名が参加して
東海教区婦人研修会



二〇〇七年度の東海教区婦人研修会は、六月五日(火)～六日(水)、河口湖畔にある富士レークホテルを会場にして開催された。この研修会は大きく二つの特徴がある。第一は実務担当が、六つある分区分婦人部の持ち回りである事である。故に会場も各分区分持ちである。第二は聖書のテキストは変わっても主題は変わらない事である。今年も「教会の肢として明日の宣教を担う」の主題の下、二回の講演が講師によって行われた。講演Ⅰのテーマは「大胆に恵みの座に近づこう」講演Ⅱのテーマは「証人の群れに囲まれて」であった。副題は「ヘブライ人への手紙を学びつつ」であった。

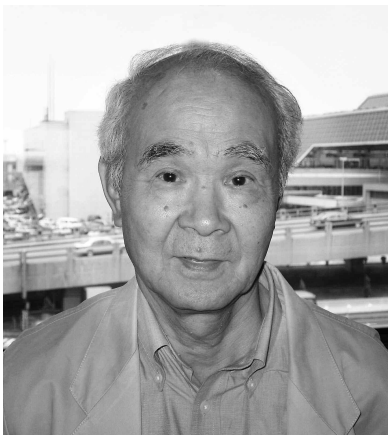
講師の高橋真美先生(教団隠退教師)の話は自己紹介から始まった。牧師になるつもりも牧師の妻になるつもりも無く神学校を受験したのに、その両方になってしまったいきさつ。長年仕えて来られた若松栄町教会は野口英世が受洗した教会だが、彼は借金を残して出て行ったので町では評判が良くないこと、など。親しみを込めた先生の口調に、会場はまたたく間にだけた雰囲気となった。すると「話は聞いただけでは何もなりません。ご自分で勉強して身につけていただきたい」と厳しい一言をいいただいた。死を待つばかりの弟さんの癌病床を訪ねて来た牧師の言葉につまずき、仕えている教会へ直ぐには帰れなかった話。一人の人間が体験する悩み悲しみ、また弱さや欠けゆえに犯す罪を率直に語り、そうした人間のために執り成し働いてくださる大祭司イエスが、わたしたちの主であることを改めて覚えさせられた。

(的場恵美子報)



川又 昇さん

こつこつと人の歯を
診て48年



1930 年生まれ。横浜明星教会員。歯科医。

長らく歯科医として働いてきたが、医院の方は後進たちにまかせて現役を退いた。もともと歯科医を志望していたわけではない。川又昇さんは、牧師の家庭に生まれ育ち、弟をはじめ親しい者たちの中にも献身した者が多い。じつは若いとき、自身も東京神学大学を受験したことがある。「今でも忘れませんが、三六名が受験して三五名が合格したので。つまり、落ちたのは私だけだったんです。この時、すでに結核を病んでいたのである。

東神大の学長をした故左近淑氏とは幼稚園の頃からの友人だった。よく共に奉仕し、よく議論をした。「淑さんは、ほんとうに面倒見のよい人でした。この

う語る川又さんは、思い出すのは自分のことではなく、他人のことばかり。しかし、川又さんは左近ゼミの隠れた後援者として、天に宝を積んでいたのである。

東京教育大学に進むが、結核が再発し、結局歯科医の道を選んだ。神学が歯学となったが、神様は川又さんに最も相応しい道を備えてくださった。専ら人の口の中を相手にする仕事は、精神的にも肉体的にもけっこうきつい仕事だ。人に仕えるにも様々なかたちがあると知った。コソコソと多くの人々の歯を診た。歯を診ることは、意外と人の内面を見ることに似ている、人との付き合いも深く長くなることもある。今、フリス女学院大学のオープンカレッジで神学を受講中。神の備える道は狭くも永く、まだまだ楽しみは尽きない。

礼拝が始まり、賛美をささげていると、遅れて入ってきた一人の利用者が前のテーブルの上に丸めたティッシュを置いた。その意味を、もはや知っている利用者の皆さんは何も言わないで讃美歌を歌っている。社会福祉法人施設の礼拝のことである。

以前、この利用者が礼拝中に前の机の上に丸めたティッシュを置いたとき、礼拝をささげている他の皆さんが、涙を流してティッシュを拭きながら、一斉に抗議した。そんなことで、失礼じゃないか、というわけである。この利用

者が、「献金だよ」とぼそりと言いつつ丸めたティッシュを置いた声を聞いているので、この利用者の行為を説明したのであった。後でその丸めたティッシュを開くと、祈る人々

祈る人々

確かに貴い十円玉が入っていたのである。この利用者は、毎週の礼拝ではないが、時にはこのようにして献金をささげられるのである。いつも何かをつぶやいている。このつぶやきは神様への深い祈り

なのである。利用者の皆さんのお祈りをいつも示されている。礼拝中、絶えず奇声を上げている人、つぶやき続けている人、これらもお祈りだと受け止めているのである。ティッシュでささげられた献金は教会においてある新会堂建築のための献金箱にささげている。今日も施設の礼拝である。おのずとティッシュ献金の利用者を探している。皆さんの祈りは当教会の宣教の基であると示されている。

(教団総会書記 鈴木伸治)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩